（様式1）

平成２６年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

（整理番号） 055	**提案機関名**	自然環境保全センター

要望問題名　ツキノワグマの人里出没要因に関する研究

要望問題の内容　【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等）】

昨年度、県内各地域でツキノワグマの人里へ頻繁に出没し、果樹等に執着する状況が発生した。当課は、県のマニュアルに基づく対策の一環として、地域県政総合センターからの依頼により学習放獣を行っているが、あくまで危険回避のための緊急的対応であって、根本的な解決とはならない。

数年おきに発生するツキノワグマの人里出没は、餌となる植物の豊凶や広域を移動するクマの行動特性に加え、集落周辺の放置果樹の存在や身を隠すことができる藪化した耕作放棄地、嗜好性の高い果樹・作物といった誘引要因や、本来の生息地である森林の植生変化といった生息環境面の要因が複雑に絡み合って引き起こされている可能性がある。

このため、県の農政と林政と環境行政の各部門と、市町村、地元関係者が一丸となって対策に取り組む必要があると思われるが、現段階では、対策を検討するための基礎的な情報が欠落している。

そこで、農業技術センターと自然環境保全センターが、農業普及、鳥獣被害対策、野生動物保護管理、森林管理等の事業を担当する各事業課と連携し、市町村等の協力も得ながら、里側の誘引要因と山側の生息環境の質に関する詳細な調査研究を行うことを要望する。

解決希望年限	①1年以内　②2～3年以内　③4～5年以内　④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター　②畜産技術所　③水産技術センター ④自然環境保全センター
備　考	

※　ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	自然環境保全センター	**担当部所**	研究連携課
対応区分	①　実施②実施中　③継続検討　④実施済　⑤調査指導対応　⑥現地対応　⑦実施不可		

試験研究課題名　（①、②、④の場合）野生動物と共存できる森林管理技術開発

対応の内容等

自然環境保全センターの研究部門では野生動物の生息環境の課題として、森林整備とニホンジカの生息環境について、野生生物課や森林整備部門と継続して研究を進めてきました。

今回、クマの里地への出没事例が増えた要因を解明する取り組みとして、基礎的な情報の調査研究における連携が提案されており、これまでの取り組みの延長であると認識しています。

調査データは、GIS を用いて解析していますので、果樹等の作付け状況や耕作放棄地の分布状況などの里側の情報が入手できれば、既存の GIS を活用し里側の誘引要因と山側の生息環境の質に関する解析について引き続き連携を図りながら進めていきたいと考えています。

解決予定年限	①1年以内　②2～3年以内　③4～5年以内　④5～10年以内
備　考	